

みなさん、お元気ですか。突然ですが、今からほぼ四百年前の明日、つまり二月十二日に、イタリアのローマに着いた四人の日本人がいます。船で二年半もかけてポルトガルという国に着き、その後スペイン、イタリアへ。イタリアのローマに着いたのは、日本を出てから三年くらい経っていました。この四人は十三歳前後、今で言うと中学生くらいのお兄さんたちでした。ローマに行った目的は、ローマ教皇、グレゴリウス十三世に会うためです。

皆、キリスト教の勉強をしていたので、洗礼名で呼ばれていました。伊東マンシヨ・千々石（ちぢわ）ミゲル・中浦ジュリアン・原マルティノ。この人たちが、グレゴリウス十三世にやつと会えたのが二月二十二日（旧暦）という訳なのです。ヨーロッパの各地で大歓迎を受けて、日本に帰ってきたのは八年後。そのころ日本の国を治めていた豊臣秀吉という人が、この四名に会いたがります。この頃の日本は、キリスト教を禁止する方向で動いていました。四人は秀吉さんと会い、ヨーロッパから持ち帰ったヴァイオリン・チェンバロ・リュート・ハープを演奏し、気に入った秀吉さんは三回もアンコールをしたそうです。秀吉さんは自分の家来になるように言いますが、四人はそれを拒否。そうこうしているうちに、徳川家康がキリスト教を禁止します。四人はそれぞれの働きをしますが、今日は特

に、中浦ジュリアンさんと千々石ミゲルさんについてお話しします。

キリスト教が禁止されている中、ジュリアンさんは、隠れてキリスト教を広めています。ある時幕府の役人につかまってしまいます。キリスト教を捨てるように言われましたが、最後まで首を縦に振らず、穴づりの刑（体をひもで強く縛って、嫌なおいのするゴミなどをためた、三メートルくらいの深さの穴に逆さづりにし、苦しみなが長引くように、耳やこめかみに小さな穴をあけられる刑。）に処せられ、三日後に死亡。刑場に入るときにジュリアンさんは、「私はローマを見た、中浦ジュリアン神父である。」と、堂々とした態度で叫んだと伝えられています。

かたや千々石ミゲルさん。キリスト教を捨てたようです。キリスト教を捨てたために、裏切り者として命を狙われたり、仏教を信じるようになって、仏教徒からも白い目で見られたり、寂しい暮らしを送ったようです。



二〇一七年、千々石ミゲルさんのお墓と思われる場所の発掘が行われ、直径二〜五ミリの五色のビーズが五十九個と、ガラス板が発見されました。これはキリスト教の礼拝に使う道具で、ミゲルさんは実は、キリスト教を捨ててはいなかったのではないか、という意

見が出されるようになってきました。今後、さらに調査が進むにつれて、何か新しい発見があるかもしれません。

歴史の勉強は、過去の過ちや失敗を同じように繰り返さないために、現代に生きる人たちに、大いに役立つことでしょう。

ただ、歴史上の人物について、現代に生きる人たちが、自分だけの感覚で、この人は良いとか悪いとか、正義の味方だとか裏切り者だとか、決めつけるのは少々危険なようです。色々な資料や新たな発見をもとに、じっくりと判断すべきなのかもしれません。

今、世界の人たちもぼくたちも、人類初めてのコロナという病気と闘っています。未来になつたら、コロナなんて、薬を飲むだけで治ってしまうというような時が、必ずや来るでしょう。未来の人たちからすると、私たちのやっていることは、なんて原始的なんだろうと、笑えることなのかもしれません。

自分たちの感覚で、おかしいとか、原始的だとか批判するのは簡単だけれど、それは慎重にすべきです。未来の人に笑われようが何だろうが、今私たちができる事、三密を避ける・うがい・手洗い・しっかりとしたマスクをする・換気、それらを徹底することです。

今週から全学年がそろって学校に来ることができるようになったことに感謝して、一人がやるべきことをしっかりと実行していきましょう。（立教小学校校長 田代 正行）